

第2回こども教育部会（R元.9.30）における主な意見

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
1	前川 部会長 猿渡 副部会長 山口委員	不登校が必ずしも貧困ではなく、子どもの貧困対策の中で不登校を取り上げることに違和感がある。不登校であっても自分の道を見つけて成功している人もいる。 こどもの貧困対策については、再度、表現の検討をしてほしい。	「子どもの貧困対策」の具体的取組である、区内 12 小学校での学習指導・支援は、不登校＝貧困ではなく、不登校から授業についていけなくなり将来的に貧困に陥いるリスクを減らそうとする事業である。 「こどもの貧困対策」については、違和感を持たれないような表現に工夫していく。
2	山口委員	他都市では生涯学習の作品を広報紙で紹介している。このような取組みをおこなってはどうか。	今年度、広報紙で各生涯学習ルームを連載で紹介している。引き続き取り組む時に作品の紹介などについて検討する。
3	猿渡 副部会長	おもてなし茶会のような茶道の体験を、おもてなし茶会に行けない子どもたちに、出前講座として体験できるようなマッチングはできないか。	生涯学習等で得られた知識や技術を提供したい人と、提供を受けたい人、また、生涯学習等の成果である作品等を展示したい人と、展示場所を提供できる人等のニーズをマッチングする仕組み「つるみ まなびのわっか」を令和2年度に立ち上げる。茶道の体験については、今年度中に施行実施として取り組みたい。